

泌乳前期の飼料TDN水準が初産牛の産乳と繁殖成績に及ぼす影響

福島県畜産試験場酪農部
平成16年度畜産試験場成績概要

- 1 部門名 畜産－乳用牛－畜産栄養
分類コード 07－01－39000000
- 2 担当者 栗原三枝・阿部正彦
- 3 要 旨

泌乳初期においては、エネルギー摂取量の不足が、産乳、繁殖性に影響を及ぼしており、特に初産牛においては、成長段階にあるため、その影響が大きい。しかし、初産牛においては、要求量が明らかにされていない。そこで初産牛の泌乳初期の飼料中の可消化養分総量（以下、TDN）水準について全国8場所の協定研究として検討した。

（1）方法

ホルスタイン種雌牛64頭を用い、泌乳前期の給与飼料としてチモシー乾草、アルファルファヘイキューブ及び配合飼料を用いたTMRによる乾物中のTDN含量が73%の標準区と76%の高エネルギー区の2区を設定し、飼養試験を行った。試験期間は、分娩予定日の42日前から分娩後116日までで、繁殖成績については分娩後144日目まで調査した。

（2）結果

体重あたりの乾物摂取量は、分娩前では差はみられなかったが、分娩後では、標準区の方が高く推移した。TDNの日本飼養標準における充足率では、標準区の方が高く推移した。産乳成績は、乳量に差は認められなかったが、乳脂率、乳蛋白及び無視固形分率は標準区がやや高い傾向が見られた。血液および第一胃液の各成分は、両区で差はみられなかった。繁殖成績では、受胎までの日数が高エネルギー区の方が早く、受胎率は高エネルギー区の方が高かった。

4 その他の資料など

なし